

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク

2021 年度事業報告書

2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日



目次

ミッションステートメント等	P 3
2021 年度 総括	P 4
NPO 等団体活動支援事業	P 6
情報発信事業	P 1 0
継続型フードバンク事業・ブックサンタ事業	P 1 3
制度の狭間で生きる人へのサポート事業	P 1 6
多文化共生事業	P 1 8
防災支援・避難所設営（運営）	P 2 3
公募型市民学習支援事業（たんたんX交差点）	P 2 5
コロナ対策給付金関連	P 2 7
中期ビジョンの策定	P 2 8
NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織概要	P 2 9

〇ミッションステートメント（私たちの使命）

～見逃されてきた課題に向き合い、共に安心と未来を創造する～

- ①<中間組織としての役割> 京都北部地域における革新的な中間組織として、行政や他の先進的な中間組織等と連携・協働しながら、京都北部の社会的な課題を解決していくことを目指す
- ②<まちづくり推進における役割> 人と人が信頼でつながるネットワークを構築することにより、丹波・丹後地域のすべての住民がそれぞれの能力に応じ行う地域のための様々な活動を支援するとともに、地域の見逃されてきた課題に向き合うことで誰もが暮らしやすいまちをつくる

〇ビジョン（実現したい社会）

すべての人にとっての「暮らしたいまち」の実現

〇コアコンピタンス（私たちの強み）

- ①多様な人材と繋がり
- ②情報発信力（IT）

〇クレド（行動指針）

- ①他利の精神
- ②想像力
- ③変革

〇スローガン

人×人ネットワーク

「個」を集結 変革力 変化への適応

クリエイティブ脳が変革をもたらす

2021年度 総括

2010年6月9日、NPO法人 京都丹波・丹後ネットワークを設立して以来、①NPO法人等ネットワーク構築・活動支援事業、②人づくり事業、③地域デザイン（収益事業）などを軸に、人と人、団体と団体（NPO、地域、企業、行政、大学など）のネットワークを構築することにより、京都丹波・丹後地域の活性化をめざし、活動を始めてから今年度で11年を迎えました。

しかし、2020年度からはコロナに翻弄され、これまで当たり前に行ってきた交流等の事業が出来なくなり、社会的弱者への支援を緊急支援と継続支援に分けて実施するなど試行錯誤の2年間でした。



今年度の概要

コロナ禍において、まちづくり講座や多文化交流等の実施が難しくなる中で、このような時だからこそ求められる支援に対して私たちはどう応えるべきかを試行錯誤しながら様々な支援を実施してきました。昨年度実施した事業についてはコロナ禍での支援として適当であったのかどうかを常に振り返り、修正を重ねながら実施してきました。これまで行ってきた外国人に対する支援については、新たな助成金を受けてコロナ禍での支援の在り方を模索しながら、「多文化交流・多世代交流」の場として、小さな交流の場を創出することで効果が得られる支援と、出向いて孤立を防ぎ、傾聴の中で課題を聴き出す支援の2つに分けて、ひとり親世帯など外国人だけでなく多様な人々に向けた事業として実施しました。昨年度の12月に立ち上げたフードバンク事業が少しずつ軌道に乗り、外国人や外国にルーツを持つ子どもがいる家庭、シングルマザー・シングルファーザー等の家庭、独居の高齢者などに定期的に配布するなかで、様々な支援に繋ぐことが出来るようになりました。しかし一方で専門性を必要とする事案に直面することも多くなり、スタッフの能力の向上と専門家との連携という大きな課題も見えてきました。事業の遂行に当たっては、大学生や外国人の支援者にボランティアやアルバイトとして参加いただけたほか、また、福知山社会福祉協議会などに交流の場やフードバンクなどご協力いただくことができ、人と繋がる大きな一歩を踏み出せたのではないかと感じています。

また、地元の新聞に大きく取り上げていただき、地域の人たちの関心を少しでも得られるようになったことも大きな成果ではないかと感じています。



今後の活動

次年度においては、地域をデザインする事業（情報発信支援）や社会的要因により困難を抱える人々に対する支援などについても、コロナ禍を意識した継続の仕方を考えながら、増加する外国人の支援や高齢者の介護等の問題、子どもの貧困問題、障害のある人の環境整備などを地域の課題としてとらえ、地域を中心に行政や大学、NPO、企業がそれぞれの役割を果たしつつ、一体となって共に支えあう地域づくりを目指していけるような支援が出来ればと考えています。

また、地域の新たな課題である、情報弱者・IT弱者への支援の一環として、zoom 講座やパソコンを使用するの申請が多くなった各種給付金の申請援助などを高齢者や外国人などに対して実施しており、今後もさらに支援体制を整えていきたいと思っています。このように、どのような分野においても、私た

ちNPOは「出来ない理由ではなく、どう変われば出来るのか」を考えられる組織でありたいと思っています。

最後に、次年度においては、策定した中期計画に従い、組織基盤強化をさらに強化して、様々な組織・人と連携しながら目的・目標に向かって努力していきたいと思っています。

財政面について

様々な活動を行うに当たり、やはり大きな課題は財政面（資金の確保）です。ここ数年のように人件費の出る助成事業がほとんどない中、人を雇用し税金や社会保険等を支払っていくことはとても困難であり、なんとか事業を継続するためには収益事業中心にならざるを得ず、本来のミッションとのバランスをいかにとりていくかについても考えざるを得ません。

さらに、小さなしかも中間支援中心のNPOでは、行政からの委託事業や補助金などは難しく、ともすれば行政と競合してしまうこともある中で、民間の助成を受けられるだけの力をつけること、さらには他団体にも助成金情報を流すだけでなく、提案できるような力をつけることが重要だと思っています。

また、クラウドファンディングなどの新しい資金調達も考えていく必要があると思っています。

雇用を継続しながらNPOを運営することは確かにとても難しいことですが、その中で生まれる人との出会いがきっかけとなり、地域に新しい風を吹かせることが出来るという確かな何かが見えてきているように思います。

今年度もコロナ関連の給付金をいただき、何とか事業を継続することが出来ました。しかし、今後もコロナ禍が続く中で、コロナ禍、コロナ後を見据えた支援を創造し、新たな資金確保の方法を試していきたいと思っています。

今年度においても、近畿労働金庫様の笑顔プラスの寄付先団体を継続していただき、ご協力を得ながら事業を進めることが出来ましたこと、そして社会貢献預金（笑顔プラス）の預金者の皆さまの温かいご支援に感謝し、地域のために何が出来るか、何が必要かを感じながらいっそう活動を進めていきたいと思っています。

近畿ろうきん 社会貢献預金（笑顔プラス）

寄付金を活用した活動報告

2021年度社会貢献活動として、近畿ろうきんが実施した社会貢献活動（笑顔をこぼす活動）の活動報告です。2021年度の寄付金（総額）は、前年度に比べて約1.5倍に増加しました。この寄付金は、様々な社会貢献活動に活用されています。2021年度の寄付金（総額）は、前年度に比べて約1.5倍に増加しました。この寄付金は、様々な社会貢献活動に活用されています。

項目	金額
総額	1,170,000円
前年度	770,000円
寄付団体数	25団体
活動内容	2021年度
活動内容	2020年度

活動報告

- 大塚 公益社団法人 子どものホスピタリティプロジェクト** (公益社団法人の子どもにむけて)
コロナ禍でも活動の場を確保し、子どもたちの学びや成長を支援するために、年間1回以上の寄付金を受け入れ、その一部を子どもたちの学びや成長のために活用しています。
- 大塚 認定NPO法人 いのちの学び** (認定NPO法人の子どもにむけて)
オンライン（Zoom）を活用し、支那に緊急避難された子どもたちの支援を行いました。生活を立て直すための法律、法律事務所、裁判所、市役所など、様々な機関に同行支援を行いました。通訳が必要な外国語の方への支援も多くなっています。
- 大塚 NPO法人 日常生活支援ネットワーク** (認定NPO法人の子どもにむけて)
被災者が被災地と被災地をつなぐ活動として「被災者向け生活支援文化活動」を開催しました。今年度はオンラインで開催し、全国各地で水害を受けた団体が災害復旧と救済を希望し、大阪からの支援を届ける機会が多くなりました。
- 大塚 NPO法人 高齢者支援ネットワーク** (認定NPO法人の子どもにむけて)
高齢者が被災地と被災地をつなぐ活動として「被災者向け生活支援文化活動」を開催しました。今年度はオンラインで開催し、全国各地で水害を受けた団体が災害復旧と救済を希望し、大阪からの支援を届ける機会が多くなりました。
- 大塚 一般社団法人 若しなび育民会** (認定NPO法人の子どもにむけて)
東日本大震災 津波被災地への支援・心のケア活動を行いました。コロナ禍のなか、被災地を支援し、被災地を支援しました。被災地に対するコロナ禍での生活支援アンケート調査や被災地の状況「お空から、ちゃんと見てる。」の発行にも取り組んでいます。
- 大塚 NPO法人 CODE海外災害援助市民センター** (認定NPO法人の子どもにむけて)
コロナ禍を契機とし、中国NGOと連携した武漢市の市民ボランティア支援活動の中心として、コロナ禍の取り組みを共有する国際アライアンスを運営しました。また、コロナ禍で生活困難に陥ったフィリピンの女性グループの助け合い活動の支援も行いました。
- 近畿 認定NPO法人 日本災害復旧ボランティアネットワーク** (認定NPO法人の子どもにむけて)
コロナ禍で活動が制限されるなか、令和2年7月豪雨災害では団体関係者のみに限定し、被災地支援に入りました。また、現地に行かなくてもできる支援として、災害復旧を支援しました。団体の被災地支援もリモート形式で防災ミーティングを実施しました。
- 近畿 NPO法人 関西NGO協議会** (認定NPO法人の子どもにむけて)
高校生を中心とした国際交流イベント「ワン・ワールド・フェスティバル for Youth」をオンラインで開催しました。高校生ボランティアから中心となって運営を行い、各地の被災地支援のSDG推進活動プログラムの参加の機会を提供しました。

NPO 等団体活動支援事業

NPO等支援（NPO 法人、自治会、社会福祉法人等）



組織や運営を見直し、それぞれのミッション達成、地域活性化へ



<概要>

・NPO 等活動団体及び企業、個人事業主等に対する支援事業

○寄附金獲得相談（1 団体）

京都創造基金の紹介、CANPAN ときょうえんへの登録手続き、申請支援・広報等支援

○通帳作成支援（外国人事業者）

外国人で作る任意団体の郵便局の通帳作成に関わる書類作成

○労務相談

内容：

- ①アルバイトで雇用される場合の基本的注意事項、社会保険等
- ②退職時の労働者側の手続き（社会保険関係、税、その他）

○法人の手続き等支援

- ①名称変更・定款変更等手続き
- ②法人税申請等支援

○助成金給付金等申請・報告等支援 申請補助・相談・フォロー

- ①子どもへの支援活動団体の依頼により、助成金情報や申請の方法、企画内容、報告書作成などを支援及び情報発信（SNS）の支援。（3件8回）
- ②廃校活用の団体及び保護犬保護猫等の譲渡を行う団体に助成金情報を伝え、申請の支援を行った（2件7回）…詳細は〇〇ページ
- ③コロナ関連給付金情報を法人・個人事業主等に向けて発信

○IT 関係の相談・支援

- ①パソコン環境の整備（7件）
- ②zoom の設定等支援（5件）
- ③京都生協オンライン講座支援（50,000 円）

○講師派遣

- ①福知山公立大学…10,000 円
- ②ふくちやまCAP…20,000 円

○人・団体・企業・大学・行政等とのネットワークづくり

内容：フードバンクや外国人支援などの事業を通して、福知山社会福祉協議会、ダイバーシティ

研究所、YWCA、日本防災士会、大阪出入国在留管理局、京都府国際センターなど多様な主体と互いに情報共有、連携していける仕組みづくり、人と人をつなぎ新たな支援の創出などを行っている。なお、たんたん X 交差点については、北近畿地域連携機構市民学習部の「公募型市民学習支援事業」に応募し、3回（エネルギー・福祉・防災）を実施。…詳細は〇〇ページ

・災害時連携NPO等ネットワーク実行委員会メンバーとしての活動

活動趣旨

近年京都府でも増加傾向にある自然災害による被害に対応し、NPO等が有する高度な専門性や豊富な現場経験を活かし、被災地で個別具体的かつ中長期的な復興支援活動ができる連絡・派遣の仕組み「災害時連携NPO等ネットワーク」の設立及び充実を図る。

活動内容

2021年度においても京都府では避難を必要とするような災害は発生しなかった。昨年に引き続きコロナ禍であるため、幹事会等はオンラインでの開催となったが、10月16日には総会とシンポジウム「発災後、それぞれの役割とその後の連携」をリアルとオンラインの形で開くことができた。また2月27日にも「地震学最先端を知る～地域のそなえ全員集合～」の講演とパネルディスカッションを「京都大学防災研究所附属地震予知研究センター」教授である橋本学氏他4名をお招きして、リアルとオンラインで開催することができた。



課題と成果

2月27日のシンポジウムでも議題にされた巨大地震に備えた避難所のあり方などは今後重要な課題となってくる。当NPOとしても「ダイバーシティを意識した避難所設営・運営」をシミュレーションできるような取り組みを、災害ネットを始め、行政、大学、企業などとも連携して進めていきたい。

その他支援事業

○Web ページ及び Facebook ページによる情報発信

Web ページ及び Facebook ページ共に、外国語による発信を実施（試行段階）

- HP の内容：新事業や事業報告、事業計画などの基本事項、コロナ関連情報、NPO 関連の法改正等を掲載

☆HP アドレス： <http://www.kyoto-tantan.net/>

- Facebook ページの内容：NPO 主催のイベント案内と報告、支援 NPO の情報など日々の話題を中心に情報発信

新型コロナウイルス禍に対しては、NPO 等に対する給付金の案内なども掲載。

また、外国人にも情報を提供。（現在 3 か国語による情報発信に取り組んでいる）

☆FB ページアドレス： https://www.facebook.com/kyototantan/?ref=pages_you_manage



○きょうと NPO センターとろうきん主催のシンポジウムへの参加、FM まいづるへの出演、あやべ市民新聞新春特番の記事掲載等による情報発信

「コロナ禍における子どもたちへの食支援活動」の現状と課題シンポジウムにパネラーとして参加（パネラーとしての料金：25,320 円）したほか、FM まいづるでは多文化共生等について紹介する機会をいただき、また、あやべ市民新聞局長の呼びかけにより、綾部市民新聞局長・綾部の企業、外国人 2 名を加えた対談「外国人との共生社会を考えるシンポジウム」を開催し、綾部市民新聞及び北近畿経済新聞に新春特番の記事として掲載していただいた。



綾部市民新聞及び北近畿経済新聞に新春特番の記事

シンポジウムちらし

支援事業全体を通して

事業成果：

- ・ 当初京都府の受託事業という形で財源を得て行ってきた支援事業も、ここ数年そういった形の受託事業が無くなったことに加え、時代の要請と共に企画内容の提案やネットワークづくり、コーディネートなどハブ的機能を主体としたものになってきたが、情報発信支援や会計実務についてはNPO法改正後、未だに法人としての責務（所轄庁への報告・法務局への登記・納税・社会保険加入等）を果たしていない団体も多くみられる。今後民間の助成金を得るうえでも事業を継続して行ううえでも、NPOとして信用を得るための組織診断・組織改革は必須となり、支援事業の重要性は増してきているように思う。
- ・ また、法改正などに伴う実務を理解されていないNPO法人も少なくないため、HPなどを通して改正のポイントや実務などを掲載するとともに、相談があれば応じるようにしている。
- ・ 引き続き、府やパートナーシップセンターなど行政機関が行う支援と役割を明確に分け、地域で重要な活動をされているNPO（自治会なども含む）や社会福祉法人などが十分力を発揮できるよう、受益者である市民を意識した支援を行っていききたい。

反省点、改善可能な点、課題など：

- ・ ここ数年同様の課題ではあるが、NPO等支援予算が立てられない中で、今までの支援をどのように継続していくか、また、これから必要とされる支援をいかに早く察知して実効性あるものにできるかが大きな課題だと考えている。その中で、NPOなどの支援については特に情報発信、助成金・給付金申請、分析、コーディネートに力を注ぎ、さらには非営利組織の評価を意識した事業展開を考えていく必要がある。それでも見過ごされている課題に対しては、京都北部（とりわけ福知山）の未来にとって必要な事業を自ら作り出すことも考えていかねばならない。その中で、同じ地域の活動団体、NPO法人はもちろんのこと、きょうとNPOセンターなどの協力も得ながら、NPO同士の連携やNPO法人のさらなるレベルアップを目指したい。
- ・ また、新型コロナウイルスに対する対策（補助金・助成金・給付金申請やBCPの策定など）について、多言語化等のきめ細やかな対応が出来るよう体制を整えたい。

情報発信支援事業

概要

収入：369,646 円

1 事業の趣旨・特徴

<事業への想い>

地域（企業）情報やコンテンツをデザインし、京都北部の情報発信力を高め、魅力ある発信を行うことにより、住みやすい地域をつくり、地域経済の活性化を促す。

さらに、地域と団体、企業等をつなぎ、コーディネートすることにより、京都北部が一体となった活性化を進める支援を行う。

<事業背景>

【京都北部の課題と事業の背景】

・京都北部は海と山を兼ね備えた素晴らしい地域であるが、地域をデザインする能力、発信する能力の不足などから、地域自体もその魅力をどのように活かせばよいのかわからず、京都北部の魅力を伝えきれていない。

また、企業においては中小零細企業が中心であるため、せっかく情報発信ツールとしてのHPを持っていても、活用・更新されていない、スマホ対応されていないなど、現状に即さないものが多く見受けられ、新たな顧客の獲得や有能な人材の確保、他地域への魅力発信がうまくなされていない。とりわけ、NPO にあっては HP などの情報発信手段を持たないところも多く、素晴らしい活動をしていても、それを利用者などに知ってもらえないケースが数多く見受けられる。

特に福祉関係や人権などの NPO については、活動が知られていないために利用機会を失い、利用者の命を左右することも多く、今後行政の財源や職員数が減少していくことを考えると、一つひとつの活動を周知することはとても重要になってくる。

さらに今年度においてはコロナの影響から zoom を活用する等の場面が増加しているが、設定の方法や使い方などを知らない組織や個人が多く、状況に応じた支援を実施することが必要である。

2 事業の概要等

●地元企業・団体応援のためのトータルデザイン

【特徴】

HPやSNSをそれぞれの特徴を生かし、うまく活用することで、団体の活動内容や魅力を発信、あるいは企業の顧客獲得、人材確保等につなげるよう、①コンテンツの内容（何を誰に何のために発信したいのかなど） ②更新のしやすさ ③SNSとの連動 ④スマホ対応 ⑤魅力あるデザインを考えて、利用者・顧客目線のHPやFBページ、ロゴ等を作成

3 事業体制

運営スタッフ（常勤）…2名

I Tスタッフ（非常勤）…1名

ボランティア…2名

4 事業の成果と課題

今年度においては、非営利の株式会社かわいのHP作成や任意団体のチラシ作成などの情報発信支援を行い、コンテンツ作りについても支援を行ってきた。

また、コロナ禍でZOOM等オンライン関係の支援、ハイブリッド配信の支援の依頼も増加している。コロナ禍での情報発信の支援をどのように実施していくか、激動する社会にどのように対応していくかが求められている。

継続型フードバンク事業・ブックサンタ事業

貧困世帯サポート事業・多文化共生事業関連

事業名：①フードバンクで繋ぐ支援事業（損保ジャパン） ②ブックサンタ事業（NPO法人チャリティ・サンタ様との協働事業）

受託期間：①2021年10月～2022年3月 ②今年度については2021年12月

助成金額：①300,000円（今年度使用額 291,533円） ②チャリティサンタ様をとおして絵本等140冊寄附していただく

1 事業の趣旨

<背景>

コロナ感染の広がりにより、ひとり親家庭、アルバイトを打ち切られた大学生、感染を恐れ孤立する高齢者や外国人等、社会的弱者がさらに追い詰められている実情がある。また、公的支援の狭間で支援の受けられない家庭が多いことも分かってきた。

また、ひとり親家庭等のなかには子どもたちに好きな本（絵本）を買ってあげられない家庭もあり、自分だけの本を持ったことのない子どもたちがたくさんいることも分かった。

<目的>

①コロナ感染のみならず、災害時や平時においても見守りや傾聴を必要とする高齢者やひとり親家庭、外国人（外国にルーツを持つ子どものある家庭を含む）等に定期的に食料を届けると共に、近況等を傾聴し、場合によっては課題を聴きだし、支援を行う。また、一方的な支援にとどまらず、高齢者の知恵やそれぞれの国の知恵等を教えてもらい、互いに協力し合える社会を目指す。

②コロナ禍で大変な思いをしている子どもたちや、生まれた環境のせいで自分だけの本を持ったことのない子どもたちに笑顔を届ける。

2 事業の概要等

<事業の内容>

①②地域の企業や農家、個人などに SNS、HP 等により広く協力を依頼し、米、乾物、野菜などを寄付していただき、必要としている家庭や個人に継続配布し、傾聴等により孤立を防ぐ。

生活用品のほか、チャリティ・サンタ様との連携により絵本なども寄付の対象とする。

対象者は、次のとおり

- ①支援を必要とする外国人（外国にルーツを持つ子どものある家庭を含む）
- ②ひとり親家庭、子どもの多い世帯
- ③一人暮らしの大学生
- ④困難な状況を抱える高齢者・障害者など

3 事業体制

運営スタッフ（常勤）…2名 （非常勤）…8名 （ボランティア）…5名

<連携>

福知山市社会福祉協議会、ふくちやま CAP、NPO法人チャリティ・サンタ、母子寡婦福祉会など

4 事業の成果と課題

①フードバンク（フードパントリー）事業を市民の皆さまや企業、農業関係者の方に知っていただくため、日本語・英語・ポルトガル語・スペイン語でパンフレットを作成。

①②市民の方や飲食店、福知山市社会福祉協議会、農事組合法人等から米、パスタ、缶詰、レトルト食品、ラーメン、調味料、野菜等、たくさんのご寄附をいただいた。

日系ブラジル人、日系ボリビア人、フィリピン等をルーツに持つ子どものいる家庭、ひとり親家庭、独居の高齢者などに、寄附していただいた米等を配布。（継続配布…12家庭、緊急配布…母子寡婦会を通じて30家庭 ブックサンタの活動として他団体との連携により140人の子どもたちに絵本等を配布 交流会等での配布）

コロナ禍で最近伺えなかった家庭にはこちらから配達し、傾聴と課題を聴き出すことにより信頼関係を築き、今後の支援につなげられた。

フードバンクの活動については、京都大学の学生や近畿農政局からの調査依頼が来るなど、コロナ禍における活動の一つとして注目されていることがうかがえる。

課題としては、今回作成した多言語のパンフレットにより、どれほどの効果があるのか、また、それに対応できるだけの供給や支援体制が取れるのかということと、ブックサンタの取組みについては、来年以降の取組みを考えたとき、要望に応じて対象地域、連携先を拡大した場合、本来のブックサンタの目的を共有できるのかということである。

<写真>

		
いただいた寄附金で購入	地元の農家さんや社協さんから	農事組合法人から万願寺
		

<p>福知山市社協さんから</p>	<p>採れたてのジャガ'任</p>	<p>ポテトグラタンを作ったというメッセージ</p>
		
<p>市民の方から生活用品も</p>	<p>チャリティ・サンタさんとの 連携ブックサンタ事業</p>	<p>ブックサンタ事業 子どもたち からサンタさんへの礼状</p>

制度の狭間で生きる人へのサポート事業

事業名：社会的要因で困難さを抱える子どもたちと保護者へのサポート事業（モバイルコミュニティファンド）

受託期間：2021年9月～2022年8月（次年度継続事業）

助成金額：988,000円（今年度使用額 307,735円）

1 事業の趣旨

<背景>

コロナ感染の広がりにより、ひとり親家庭、アルバイトを打ち切られた大学生、感染を恐れ孤立する高齢者や外国人等、社会的弱者がさらに追い詰められている実情がある。また、公的支援の狭間で支援の受けられない家庭が多いこともわかってきた。

<目的>

コロナ感染のみならず、災害時や平時においても見守りや傾聴を必要とする高齢者やひとり親家庭、外国人（外国にルーツを持つ子どものある家庭を含む）等に定期的に食料を届けると共に、近況等を傾聴し、場合によっては課題を聴きだし、支援を行う。（たんたんフードバンク事業）また、一方的な支援にとどまらず、子育て、介護等の情報の交換や高齢者の知恵やそれぞれの国の知恵等を教えてもらい、互いに協力し合える社会を目指す。

2 事業の概要等

<事業の内容>

1. フードバンク及び見守り・傾聴…たんたんフードバンク事業により実施
2. ミニ交流会・学習支援等の開催
3. 相談活動
4. 情報の受発信の強化

対象者は、次のとおり

- ①支援を必要とする外国人（外国にルーツを持つ子どものある家庭を含む）
- ②ひとり親家庭、子どもの多い世帯
- ③一人暮らしの大学生
- ④困難な状況を抱える高齢者・障害者など

3 事業体制

運営スタッフ（常勤）…2名（非常勤）…8名（ボランティア）…5名

<連携>


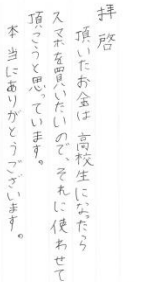
福知山市社会福祉協議会、母子寡婦福祉会、民生児童委員、ふくちやまCAP、NPO法人チャリティセンター

4 事業の成果と課題

フードバンクやブックサント事業の取り組みを進める中で、制度の狭間で支援を受けられず、それぞれ異なる課題を抱えている家庭・人が多いことが分かってきた。それは食材等の課題だけではなく、情報を得る手段が限られているために本来ならば受けられる支援を受けられずにいるケース、交通手段の問題で支援が受けられないケース、相談等をどこにすればよいのかわからず、どこからも状況を把握されないままになっているケース、中には民生委員や市の職員に相談した際に人権を踏みにじられるような言葉を発せられ、生活保護等の支援を打ち切られるのではないかと不安になり、我慢し続けているという人もいた。

そのような課題を一つ一つ丁寧に拾い上げ、連携先と繋ぎ、あるいは支援計画を立てるといった一人ひとりを大切に思う支援を行っていきたい。

<寄せられた手紙・メッセージ、訴え>

	<p>24日は絵本や食料品、日用品のご支援ありがとうございました。年末年始で出費や自宅にいる機会が増えるので、本当にありがたいです。息子もかいつソロリの本に大喜びでした。まだ字を読むことは難しいので、少しずつ読み聞かせしています。昨夜から大雪となり、今日は雪かきをしました。良い運動になります。いつも本当にありがとうございます。資格試験に向けて、がんばります。</p>	<p>わざわざ持って来ていただきありがとうございました。子供たちは絵本読んでいました。いつも、沢山の物資ありがたいです。</p>
<p>母子家庭の母親からの手紙</p>	<p>母子家庭の母親からのメッセージ</p>	<p>母子家庭の母親からのメッセージ母子</p>
<p>二人の子どもに 2冊の絵本をいただき、ありがとうございました。早速大喜びで上の子が下の子に読み聞かせし、私も一緒に聞き役に回し、親子で良い時間を過ごすことができました。繰り返し読み、子らの血肉になることを願います。</p>		<p>仕事をしたくても出来ない身体的事情があり、ずっと生活保護を受けている。民生委員や市役所から手続き等で様子を見に来られるが、「働きもしないで暮らしているのだから、コンビニなんて高いところで買い物をするな!!」「生きさせてもらっているだけ有難いと思え」等と言われることがあり、それでも生活保護を受けられなくなると死ぬしかないのだと思い我慢しているという訴えがあった。</p>
<p>母子家庭の母親からのメッセージ</p>	<p>中学生の受験生から</p>	<p>生活保護を受ける一人暮らしの女性からの訴え</p>



- 事業名：①外国にルーツがある人々へのトータルサポート事業（三菱財団×中央共同募金会助成）
②支援の質を高め、外国にルーツがある人が暮らしやすい地域にするための事業（中央共同募金会助成）
③多文化交流会の開催（福知山市共同募金助成事業）

受託期間：①2020年9月～2021年9月（前年度からの継続） ②2021年12月～2022年9月（次年度継続） ③2020年12月～2021年2月

予算額：①2,100,000円（うち今年度振込額700,000円） ②1,640,000円（うち今年度振込額1,090,000円 今年度使用額196,730円） ③100,000円

※多文化共生事業は、皆様からのご寄附により、三菱財団×中央挙動募金 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成事業の助成を受けて活動しています

1 事業の趣旨

<活動（事業）に取り組む背景>

5年前から児童館（市の施設）との協働により外国にルーツのある人や外国人労働者等を支援してきたが、昨年度で終了し、児童館という居場所や相談の場が無くなってしまったことに加え、コロナの影響により毎月一回程度開催してきた交流会も3月以降実施できていなかった。また、ステイホームの呼びかけにより、配偶者間のDVや子どもへの虐待が増加したという声も聴かれる。コロナ禍においては、ひとつの場所に外国人が集まることで地域の人たちに冷たい視線を浴びせられることもあり、住民への啓発を行いながら、コロナ禍での支援の在り方及び今後の支援方法の転換を模索し、多様な人や組織による総合的長期的に支援する仕組みづくりが急務である。

<活動の目的と課題>

○目的

外国にルーツのある人がそれによって差別を受けることなく、安心して安全に暮らせる地域にすること。他の住民との関わりにおいて、言語や文化等の違いが壁ではなく強みや誇りになり、互いが協力し合えるような地域にしていくこと。そのための仕組みづくり。

コロナ禍において、外国籍、外国ルーツのある人が孤立することを防ぎ、経済的にも精神的にも困窮することのないよう緊急的な支援を行う。

○課題

- ・ コロナ禍における居場所・相談の機会を創る
- ・ 地域で暮らす様々な人たちとの交流の場を創る
- ・ 貧困による教育の遅れ、食・病等の不安、情報、自然災害の際の対応への支援
- ・ 多様な人が支える、多角的・総合的・長期的な支援体制の確立

2 事業の概要等

<フードバンク 食材配達・見守り・傾聴>

2020年12月より実施…現在、2か月に1回程度(家庭の状況に応じて)、9家庭を継続支援(計50回程度)

交流会等においても食材を配布(計9回 延べ30名程度に配布)

<交流会>

場所は福知山市社会福祉協議会(緊急事態宣言時はたんたんスペース)

2021年度

4月11日 参加者12名…ボリビア料理エンパナーダ 中南米のことを知ろう 日系ブラジル人の夫婦の出産、育児の悩み事相談

7月11日 参加者15名…ブラジル料理フェイジョアータ YWCAチャン先生に教えてもらう支援者と受益者のための困りごとワークショップ

8月29日 参加者13名…フィリピンのデザートハロハロ 英語でおしゃべり

9月12日 参加者15名…ボリビアの誕生日会を体験しよう 地域の人が作ってくれたお好み焼きとボリビアのケーキ それぞれの食文化を持ち寄って交流

12月25日 参加者17名…ごちゃまぜクリスマスパーティー

場所はつぎの里、新たにドイツルーツの家族4名が福知山市さんの紹介で参加。料理は持ち寄り、飾り付けなどもみんなで行う。密を避けるため、すべての部屋を活用。それぞれのテーブルが違う言語で会話するなど、とても和やかな雰囲気。日本に来てからの出来事、子どもたちの学校の様子などを話した。また、共栄高校にサッカー留学し、来年からプロリーグへの参加が決まっているブラジル出身のガブリエル君も参加してくれた。

3月19日 参加者17名…日本の伝統料理教室

場所は総合福祉会館、地域の方に料理(出汁巻き卵、薔薇の巻寿司)を教えていただく。フィリピンにルーツを持つ子どもたちやドイツルーツの子どもたちも参加してくれ、楽しそうに料理を作るなど、良い交流の時間となった。また、この地域に伝わる伝統料理を作っていただき、それぞれの意味や作り方などを紹介してもらった。

<相談会・事案検討会>場所は当NPO事務所(たんたんスペース)

2020年12月11日～2021年9月24日の各金曜日に相談日を設けたほか、緊急に検討する事案が生じたとき等報告・検討会を実施(計50回程度)

<学習支援>場所は当NPO事務所及び当事者の自宅など

・2月に相談のあった外国ルーツの不登校の中学生に対して、理科・英語をサポート及び進路に向かっての勉強(計52回)

・日本語を習得したいという4名に対して週1～2回勉強会開催(計12回)

・外国ルーツの子どもへの日本語習得支援 週1回程度(計7回)

<その他の支援>

- ・相談に対する対応・支援（電話対応含め計100回程度）

コロナ禍での雇止め、出産・育児の寄り添い、ビザ申請、離婚訴訟、通帳作成支援、離職に伴う住居探し、生活保護申請、ギャンブル依存者の見守り、外国ルーツの子どもの不登校に対する学校との協議等

- ・地元婦人会への多文化共生に向けた啓発（合同交流会 計2回）

<支援体制の充実にに向けた取り組み>

- ・2020年10月15日 三田市国際交流協会への視察
- ・2020年10月30日 ダイバーシティ研究所田村太郎氏からアドバイスを受ける
- ・2021年7月3日 ダイバーシティ研究所田村太郎氏講演テーマ「地域で暮らす外国人のいまとこれから」綾部市共催、福知山市後援（オンライン配信あり）参加者 現地参加者40名（コロナ感染防止）ユーチューブ配信（当日25名 その後100名超）…企業（介護施設等含む）、自治体職員、外国人支援団体、市民等
- ・2021年7月11日 YWCAの張善花氏をお招きし、外国人支援に必要なことを学ぶ
- ・2021年8月4日 国際行政書士脇田氏から様々な事例を学ぶ
- ・2021年8月5日 きょうとNPOセンターの平尾氏をお招きし、活動継続のための基盤強化全般について学ぶ
- ・2021年8月24日 福知山市役所まちづくり推進課国際支援担当との意見交換
- ・2021年9月24日 きょうとNPOセンターの平尾氏に活動継続のためのファンディングについて学ぶ。また、アドバイスを受けながら事業の振り返りを行う。

3 事業体制

運営スタッフ（常勤）…2名 （非常勤）…8名 （ボランティア）…5名

<連携>福知山市社会福祉協議会、母子寡婦福祉会、民生児童委員、ふくちやまCAP、NPO法人チャリティ・サンタ

4 事業の成果と課題

<成果>

- 大学生など若い人たちや様々な職業の人たちがボランティアや非常勤、参加者として様々な場面で支援してくれるようになったこと
- フードバンクを活用することで、より多くの家庭を見守り、課題を共有できたこと
- それぞれの課題に対して、組織で検討する体制を作れたこと
- 福知山市社会福祉協議会の会場を交流会等でお借りすることが出来るようになったこと

<課題>

- 外国人が支援してもらいたい場面は国や個人によっても違うため、誰にどのようなサポートが必要かを見極める必要がある

- 市民への外国人支援についての理解⇒情報公開等をさらに進めていく必要あり
- 関係機関等との連携の強化と継続するための資金作り⇒福知山市との連携等について協議中
- スタッフのスキルアップ⇒次年度に傾聴講座や多言語文化講座等を開催予定

<写真>

		
<p>ボリビアの仲間たち</p>	<p>zoom を使って密をさける</p>	<p>Happy birthday</p>
		
<p>見て、見て</p>	<p>フィリピンのハロハロ</p>	<p>ベトナムの技能実習生たち 婦人会との連携</p>
		
<p>ワールドクリスマスパーティー</p>	<p>あやべ市民新聞主催 多文化共生シンポジウム</p>	<p>多文化共生シンポジウム 日系ボリビア人から見た日本</p>



まずはお手本



薔薇の巻寿司難しそう



ぼくがやる、私が先…



みんなで折詰



地元の方が作ってくれたぬた



みんなで作った薔薇の巻寿司

防災支援・避難所設営（運営）

事業名：ダイバーシティを意識した廃校活用広域避難所モデル構築事業

予算（助成額）：400,000円（今年度使用額：266,622円）

受託期間：2021年8月～2022年7月（次年度継続）

1 事業の趣旨

<事業の背景>

福知山は水害の多い地域であり、毎年のように大規模な水害に見舞われる。その中で、これまでNPOや自治会に対するBCP策定の支援や研修・訓練の支援、外国人への防災研修等を実施してきた。この度、当NPOの理事の一人が現在廃校の活用に取り組んでいること、及び、理事長が昨年京都大学防災研究所に所属する者に交代したこともあり、南海トラフ等を含む大災害を想定し、廃校を活用した避難所の設営モデルを地域と共に構築したいと思い、申請に至った。

2 事業の概要等

<事業内容>

1. 災害対応についての講演会の開催

テーマ：誰も取り残さない災害対応をめざして～災害多発&ウィズコロナ時代の新たな防災～

講師：ダイバーシティ研究所 田村太郎氏

開催場所：市民交流プラザふくちやま 視聴覚室（ユーチューブとのハイブリッド形式）

日時：令和3年11月13日（土曜日）

内容：①過去の災害での避難所運営や被災者支援から見てきた課題 ②ダイバーシティとインクルージョン（多様性配慮と包摂）が必要な理由 ③コロナ禍で変化する避難様式と誰ひとり取り残さない災害対応について

参加者：現地25名 ユーチューブ視聴155名（参加者の属性は行政職員、防災士、看護師、自治会長等幅広い）

2. コロナ禍を想定した防災テント等の避難所設営を、イベントとして地域の子どもたちを含めた住民とともに、遊びの中で実施。

○旧川合小学校のグラウンドは現在キャンプ場としても活用されているが、京阪神から来た親子と共に防災テントを組み立てる等して設営を体験。組み立てることよりも仕舞いの方が難しいことが分かる。

3. 南海トラフ等の影響を強く受けると考えられる地域との平時からの交流を図るなかで、避難所として活用しやすい環境を整え、共に避難所設営・防災訓練を実施できるような関係作り。

○2で実施した京阪神からの親子等から意見を聴きながら、大災害が発生したときのシミュレーションや平時の活用が有事の際にも役立つような仕組み、設営を実施していく。

※これらの活動を、ジェンダー、世代、他市交流、連携、コロナ禍（感染症）をキーワードにしたルール作りの場としても活用する。

3 事業体制

運営スタッフ（常勤）…2名 （ボランティア）…2名

4 事業の成果と課題

<成果・効果>

行政職員の方数名が参加していただいたことは、行政との連携・協働の第一歩となった。

また、ダイバーシティ研究所と連携することで、これからの防災に必要な視点が明確になり、実際に旧川合小学校という場でシミュレーション出来たことが大きい。

<課題と今後に向けて>

課題としては、設営のモデルにするには旧川合小学校の立地上、交通の便などの観点から難しいということ。しかし、今後廃校が増加していく中で、へき地にある小学校だからこそ住民避難の場として活用できるのではないかと考え、広域避難場所としての活用と共に、独居の高齢者等が安心して過ごせるための小規模の避難場所として活用できる方法も模索していきたい。

<チラシと写真>

<p>誰も取り残さない災害対応をめざして ~災害多発&ウィズコロナ時代の新たな防災~</p> <p>災害時はスピードとボリュームが最優先され、女性や高齢者、障害者、外国人など多様なニーズを持つ住民への対応が後回しになりがちです。過去の災害での取り組みから、どのような状況にあっても「誰ひとり取り残されることのない」災害対応をめざして、地域に求められる取り組みをともに考えます。</p> <p>日時 令和3年11月13日（土曜日）18:00~21:00（17:30開場） 場所 市民交流プラザふくちやま 視聴覚室 福知山市駅前町400番地</p> <p>※視覚での関与が難しい場合は、オンライン開催に切り替える場合があります。その際は事前にご連絡いたします。</p> <p>内容 ●田村太郎氏による講演 ●過去の災害での避難所運営や被災者支援から見てきた課題 ●ダイバーシティとインクルージョン（多様性配慮と包摂）が必要な理由 ●コロナ禍で変化する避難様式と誰ひとり取り残さない災害対応について</p> <p>●質疑応答</p> <p>～一般財団法人ダイバーシティ研究所 代表理事 田村 太郎氏</p> <p>兵庫県伊丹市生まれ。阪神大震災で被災した外国人の支援や復興まちづくりに取り組みネットワーク「神戸復興塾」事務局長として復旧・復興に関わり、2007年に「ダイバーシティ研究所」を設立。CSR（企業の社会的責任）におけるダイバーシティ戦略や自治体による多様性配慮のための施策づくり、多文化共生の推進に長年携わっている。</p> <p>参加費 無料 定員 30名 参加申し込みは下記のページからお願いします http://kyoto-tantan.net/bousai2021/</p> <p><主催・申し込み・問合せ> 特定非営利活動法人京都丹波・丹後ネットワーク メール tantan@kyoto-tantan.net 電話 0773-45-3507</p> <p>後援 福知山市 綾部市 福知山市社会福祉協議会 日本防災士会京都府支部 災害時連携NPO等ネットワーク この事業は「真知苑」の助成を受けて実施致します</p>		
<p>講演チラシ</p>		<p>○京阪神からのキャンプ参加者の家族たちと共に防災テントの設営訓練 「組み立ては簡単だけど、しまうのが案外難しいのね」</p>

公募型市民学習支援事業（たんたんX交差点）

事業名：公募型市民学習支援事業（福知山公立大学北近畿地域連携機構市民学習部）

予算総額：129,000円

受託期間：2021年10月～2022年2月

1 事業の趣旨・特徴

事業への思い

まちづくりを推進していくためには、様々な人が集まり、情報を共有し合い、話し合う場が必要となる。

市街地にそういった場が作れたことは未来のまちづくりに必ず通じると考えている。

私たちはこの場をより活用しやすいものとして、より多くの人、団体に使っていただけるよう発信していきたいと思っている。

事業背景

【事業の背景】

2018年以降継続してきたたんたんX交差点がコロナにより中止せざるを得なくなる中で、今回福知山公立大学北近畿地域連携機構市民学習部による公募型市民学習支援事業を活用させていただき、ハイブリッド形式による再開となった。

2 事業の概要等

【内容】

3回シリーズ。まちづくりに関するテーマ（①再生エネルギー ②共生社会 ③防災）を設定し、専門の講師をお招きして講座を開催。前半は講座、後半は福知山公立大学の杉岡准教授をコーディネーターに迎え、会場参加者との意見交換。

【広報】HP、FB ページ、ちらし、口コミ

<内容>

テーマ：再生可能エネルギーと環境問題～地域は何を選ぶべきか？（エネルギー）	テーマ：ごちゃませ共生社会実現への挑戦（福祉・介護）	テーマ：災害と住まい～災害を乗り越えていくために～（防災）
講師：たんたんエナジー代表 木原 浩貴氏	講師：マスタードノタネ代表 田中 良樹氏	講師：京都大学防災研究所 牧 紀男
日時：10月15日	日時：12月9日	日時：1月27日
参加者：現地…12名 オンライン…9名+50名	参加者：現地…15名 オンライン…7名+34名	参加者： オンライン…17名

2021 10/15 金曜日
再生可能エネルギーと環境問題
地域は何を選ぶべきか？
 17時30分受付～18時開演
 現地とYouTube配信のハイブリッド開催

地球温暖化が私たちの生活にも大きな影響を及ぼしてきている。そんな中化石燃料から再生可能エネルギーへの転換が進んでいますが、今の再生可能エネルギーは本当に環境に優しいのでしょうか？そして私たちは何をすべきなのでしょうか？
 今回のセミナーを通じて、京都府立大学北近畿地域連携機構（NanTan）の市民学習の意義を、またNanTanのエンジニアリング・社会貢献活動、京都府地球温暖化防止活動推進センター副センター長の木原浩貴氏をお招きして開催します。

<講師プロフィール>
 1977年 岐阜県生まれ。
 2020年 京都府立大学生命環境科学研究科博士後期課程を修了。「博士(学術)」
 専門は、環境エネルギー政策、環境心理学。
 総合地球環境学研究所専任講師、立命館大学授業担当講師、
 龍谷大学非常勤講師。
 京丹後市長の秘書として、京都府環境政策推進委員会、公益財団法人京都府環境安全活動推進協会理事、
 京のジェンダー21フォーラム幹事等を務める。

参加申し込みはこちら
<http://kyoto-tantan.net/tantan/>
 会場：市民交流プラザ福知山 視聴覚室

主催：特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワーク
 京都府福知山市民会館7F 各ホール1階
 電話・FAX 0773-45-3507
 HP: <http://kyoto-tantan.net>
<https://www.facebook.com/kyototantan/>

たんたん交差点
 未来のまちをデザインする
 福知山公立大学北近畿地域連携機構市民学習部 公募型市民学習支援事業

2021 12/9 水曜日
ごちゃまぜ共生社会実現への挑戦！！
 17時30分受付～18時開演
 現地とYouTube配信のハイブリッド開催

社会福祉法人の刷新で動きながらマスタープランを立ち上げた田中良樹さん。コロナ禍で孤立する人が増えていく中で、福祉の専門職だけでなく、農業者、料理人、コミュニティー・・・・地域で暮らしながらのにより、新たなコミュニティの場をデザインし、当事者も外国人も、そして移住者もそこで働き、暮らし、つながることが「ごちゃまぜ共生社会」の実現に取り組まれています。
 今回は、マスタープランの活動を通じて、ごちゃまぜ共生社会への挑戦、夢、苦労・・・様々なお話を聞かせていただきます。

<講師プロフィール>
 ・社会福祉法人 松寿 理事・経営管理室
 ・小規模経営おやすみ塾 塾長
 ・介護予防・健康交流のコミュニティスペースcafe co co 管理者
 ・京都府認知症介護指導員
 ・京都府認知症支援チーム「まがりと」チーム員
 ・京都府老人福祉施設協議会身体障害者自立推進研究委員会 委員長
 ・マスタープラン代表
 ・にじやたろう情報発信員

参加申し込みはこちら
<http://kyoto-tantan.net/tantan/>
 会場：市民交流プラザ福知山 視聴覚室

主催：特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワーク
 京都府福知山市民会館7F 各ホール1階
 電話・FAX 0773-45-3507
 HP: <http://kyoto-tantan.net>
<https://www.facebook.com/kyototantan/>

たんたん交差点
 未来のまちをデザインする
 福知山公立大学北近畿地域連携機構市民学習部 公募型市民学習支援事業

2022 1/27 水曜日
災害と住まい
～災害を乗り越えていくために～
 『阪神・淡路大震災 東日本大震災の復興から考える』
 17時30分受付～18時開演
 今回はZoomでのオンライン開催となりますので、事前予約が必要です

阪神大震災や東日本大震災など、大規模な災害が起こった場合、一時的に避難所や仮設住宅に移り住んだり、家を修理等している間賃貸住宅に住んだりということも、私達は災害によって住まいを移さなければならぬ場合があります。災害が起こった元の場所ですぐに生活を再建できると思いがちですが、毎年のように起こる災害を軽減したとき、別の住まいに探れないケースが多くなります。これからの災害対応を考えたとき、一時的にしろ、長い期間にしろ、災害時には住まいを移さなければいけないこともあることを、きちんと知っておく必要があると思います。
 講師の専門分野でもある災害に強いまちづくりを通して、住まいという観点から災害を考えてみましょう。

<講師プロフィール>
 牧 紀男 京都大学防災研究所 教授
 数多くの自治体の防災戦略計画策定、地域防災計画に携わると共に、2004年新潟県中越地震で大きな被害を受けた小浜市の復興計画の策定・検証や、2011年東日本大震災では若手災害対策本部において災害対応時の情報処理支援を行う等、被災地における自治体支援活動を行っている。

参加申し込みはこちら
<http://kyoto-tantan.net/tantan/>
 会場：オンラインのみでの参加となります

主催：特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワーク
 京都府福知山市民会館7F 各ホール1階
 電話・FAX 0773-45-3507
 HP: <http://kyoto-tantan.net>
<https://www.facebook.com/kyototantan/>

たんたん交差点
 未来のまちをデザインする
 福知山公立大学北近畿地域連携機構市民学習部 公募型市民学習支援事業



ちらし



ちらし



ちらし



木原さんによる講演



田中さんによる講演



牧先生による講演 (zoom)

会場の様子

会場の様子

参加者の様子

コロナ対策給付金関連

給付金等制度の活用（総額：1,469,770 円）

＜経済産業省＞

一時支援金…600,000 円

月次支援金…369,770 円

＜福知山市＞

福知山市休業事業者応援事業支援金…500,000 円

中期ビジョン等の策定

中期ビジョン等の策定にあたって

<趣旨>

コロナ禍、コロナ後を見据えた活動を有効なものにするためには、中期ビジョンを策定し、中長期経営計画及び単年度計画に活かしていくことが必要である。

アフターコロナにおける「ニューノーマル」を当NPOの活動に対して考えてみたとき、次のような変化が考えられる。

- ①人とのつながり方の変化
- ②衛生・健康等への意識の高まり
- ③デジタルとリアルの位置づけの変化
- ④活動のオンライン化・ハイブリッド化
- ⑤安心・安全に対するニーズの高まり
- ⑥地球規模で考えたときの環境等
- ⑦貧困層への支援のあり方の変化

そこで、中期ビジョン・中期計画・単年度事業計画を策定する方法として、改めて5年先の当NPOが目指すべき未来を描き、社会が解決を求める課題を想定して、そこから戦略を導き出す「バックキャスト」の手法により、①現状の分析 ②事業アイデアの発散 ③中期ビジョンの言語化 ④事業アイデアの具体化 ⑤中期経営計画・事業計画の策定（落とし込み）という流れにより実施した。

中期ビジョン：つなぐ よりそう ささえあう

中間支援的役割としての「繋ぐ」、直接支援としての「寄り添う」、そして互いに協力し「支え合う」社会の実現 をテーマに、組織や人を繋げ、繋がり、人の心に寄り添う活動を実施し、誰もが暮らしやすい社会を実現

NPO 法人 京都丹波・丹後ネットワーク組織概要

会員・寄付金（前年度）

正会員（1口 1,000円）20名 7,000円

寄附 1,619,430円（うち ろうきん笑顔プラスによる寄附 228,493円 フードバンクへの寄附 90,000円）



会議の開催

理事会の開催⇒

日時 ……令和4年1月24日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所（現地とオンラインのハイブリッド）

出席者 ……牧紀男、森田洋行、杉岡秀紀、倉本到、寒竹聖一、森田浩三、足立淳子、森田浩三、東家零子

内容 ……①役員改選について ②今年度振り返り ③来年度の計画 ④中期ビジョン策定について

日時 ……令和4年5月17日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所（現地とオンラインのハイブリッド）

出席者 ……牧紀男、森田洋行、杉岡秀紀、寒竹聖一、土佐祐司、足立淳子、梅原麗子、森田浩三、東家零子

書面票決 ……1名（倉本到）

内容 ……①2021年度事業報告・収支報告 決算（案）について ②2022年度事業計画・収支予算について ③任期満了に伴う役員選任（案）について ④その他

日時 ……令和4年5月28日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所（現地とオンラインのハイブリッド）

出席者 ……牧紀男、森田洋行、杉岡秀紀、寒竹聖一、土佐祐司、足立淳子、梅原麗子、森田浩三、東家零子

書面票決 ……1名（倉本到）

内容 ……①理事長及び副理事長の選定について ②2022年度事業の執行について

通常総会の開催

日時 ……令和4年5月28日

場所 ……京都丹波・丹後ネットワーク事務所（現地とオンラインのハイブリッド）

出席者 ……森田洋行、足立淳子、森田浩三その他会員等（9名）オンライン参加3名

委任状 ……2名

内容 ……2021年度事業報告、決算決議、役員改選決議及び2022年度事業計画の説明、



2021年度事務局体制

当 NPO の副理事長及び理事 1 名が通年勤務。臨時の業務がある場合、理事 3 名が応援、計 5 名体制で活動。また、必要あるときはアルバイトを雇用（又は他の理事・会員によるボランティア）。